

＜対策のポイント＞

多様な食の需要への対応や食に関する社会課題の解決を図るため、食品事業者等による、フードテック等を活用したビジネスモデルの実証を支援します。また、これらの実証の成果の横展開を図るための情報発信等の取組を支援します。

＜事業目標＞

フードテック等を活用した新たな商品・サービスの創出

＜事業の内容＞

1. ビジネスモデル実証事業の支援

国内の食品事業者、流通事業者、製造事業者、情報関連事業者、大学等の研究機関、食育・栄養関係団体等による**フードテック等を活用した新たな商品・サービスを生み出すビジネスモデルを実証する取組を支援**します。

【ポイント】

「みどりの食料システム戦略」、「農業DX」等に資するものを重点的に支援

◎想定されるモデル

【例1】

世界の食料需要は、2050年には2010年比1.7倍、うち畜産物は1.8倍、穀物は1.7倍との見通し。増大するタンパク質需要に対応するため、代替タンパク質を原料とする食品製造の事業化。

【例2】

養殖業成長産業化総合戦略（2021.7）において、「魚粉代替原料の生産技術の開発を進める」との方針。昆虫や藻を使用する飼料生産についての事業化。

2. 横展開に向けた情報発信等

1の取組により実証された内容の横展開を図るため、実証成果をとりまとめたウェブページ等の成果物の作成、セミナーの開催等による**情報発信等の取組を支援**します。

＜事業の流れ＞

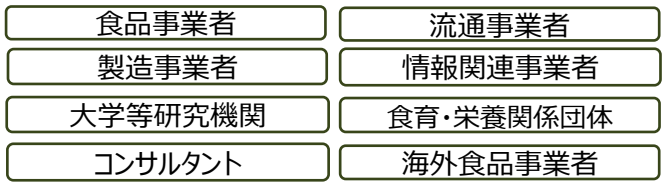


＜事業イメージ＞

技術

植物性タンパク質を用いた食品、3Dフードプリンター等、多様な食の需要や食に関する社会課題を解決するための新しい技術

関係者



産学官、異分野、同業種連携等による、「PoC (Proof of Concept) 止まりの壁」のブレイクスルー (単独でのビジネスモデル実証の実施も可)

ビジネス化



事業戦略検討、試作品製造、マーケティングリサーチ、商品デザイン、テストマーケティング、販路確保、原材料確保

結果



SDGsの達成に資するプロジェクトとしてPR

・環境負荷の低減など、国内外のニーズに対応
 ・食料安全保障に貢献